

令和2年度 第2回富良野市総合教育会議 会議録

開催年月日	令和2年12月24日(木) 開会：午前10時29分 閉会：午前11時33分
開催場所	富良野市役所 大会議室
出席者	市長 北 猛 俊 教育長 近 内 栄 一 教育委員 宮 本 鎮 栄 教育委員 菅 野 義 則 教育委員 渡 邊 啓 子
欠席者	津 山 正 樹 教育委員
事務局等出席者	富良野市教育委員会 富良野市 教育部長 亀 淵 雅 彦 副市長 石 井 隆 学校教育課長 佐 藤 清 理 総務部長 稲 葉 武 則 学校教育課主幹 松 原 光 利 保健福祉部長 柿 本 敦 史 社会教育課長 高 田 賢 司 総務課長 今 井 顕 一 こども未来課長 佐 藤 保 財政課長 藤 野 秀 光 こども未来課主幹 松 木 政 治 学校教育課管理係長 石 坂 征 和
議 題	1) 子育て支援・教育の包括的な支援体制について 2) 令和3年度以降に向けた、教育委員会主な施策について 3) その他
傍 聴 人	なし
報 道 機 関	なし

議事の経過

開会 午前10時29分

亀淵教育部長

おはようございます。本日の総合教育会議であります。津山委員から仕事の関係で遅れる、場合によっては欠席する旨の連絡がありましたのでご報告いたします。

ただ今より令和2年度第2回富良野市総合教育会議を開会いたします。本会議は、市長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り、本市教育の課題及びめざす姿等を共有しながら、同じ方向性のもと連携して効果的に教育行政を推進していくことを目的としております。富良野市総合教育会議設置要綱に基づき、開会するものであり議事録は公開することとなっております。

開会にあたりまして北市長よりご挨拶をお願いいたします。

北市長

おはようございます。第2回の総合教育会議ということで、部長の方からお話がありました。富良野市の教育に係る課題について意見交換を行うということで、参加いただいたみなさんに改めてお礼を申し上げます。また、今年はコロナの状況が大変でありまして、春から学校の一斉休業、感染に係る防止対策ということで教育委員のみなさんにもご尽力いただいております。いろいろ影響が出ていますがご苦勞のおかげで子どもたちの生活環境を維持していると感じております。そういったことにつきましても改めてお礼申し上げます。コロナの影響ではありますが、屋外での活動では割に感染については危険性がないと思いますが、今現在ではスポーツ少年団や部活動にも影響が出てきている状況です。本来、開催されるオリンピック・パラリンピックも中止となり、世界のイベントを子どもたちが目にすることで、大きな効果や影響を与えることだと思っております。そうしたものが中止となったことはやむを得ないことではありますが、見せることができなかったのは残念な気持ちであります。いろいろな環境がありますが、今回の意見交換ということで2点ほどありますが、1点目の子育て支援・教育の包括的な支援体制ということで、意見交換を行います。この関係では、子どもたちの生活環境あるいは、教育環境の中でいろいろな課題がありますが、それをどういった形で総括的、全体的に支援していくかという意見交換になると思います。微妙な部分もあり教育委員さんと思いを共有しながら取り組みを進めて行くことが大事だと思っております。意見交換にあたっては忌憚のない意見をお願いします。最後になりますが、総合教育会議を通じて子どもたちの教育環境をさらに充実、発展できますことをご祈念いたしまして、開会の挨拶に代えさせていただきます。よろしく願いいたします。

亀淵教育部長

続きまして、近内教育長よりご挨拶をお願いいたします。

近内教育長

おはようございます。北市長におかれましては、子育てするなら富良野市でいうことを基本に、包括的で切れ目のない子育て教育環境の推進にご理解とご支援をいただいておりますことにお礼を申し上げます。今年は春先からコロナの影響で学校が長期休業を余儀なくされ、また外出自粛や子育て施設等の利用制限、自粛などで子どもたちが家庭で過ごす時間がすごく増え、経済情勢が厳しい中で保護者も心理的に厳しい状況の中で、家庭で子どもを育てるという環境づくりが大きな課題だと考えております。そういった中、本市では市長の理解により学校中心にICT環境整備が他の市町村と比べて格段に進んでいる状況です。例年11月に開催しています子ども未来づくりフォーラムは、文化会館で市内の小学生が一堂に集まり開催していましたが、今年は各学校と市役所と図書館をオンラインで繋いで開催することが出来ました。この中で、子どもたちが富良野市のまちづくりを自ら考え調べ、発表しました。非常に大きな成果がありました。これからのまちづくりを考える中で、まちづくりは人づくりといいますが、地域の課題を地域住民と一緒に考え学び、活動に結び付ける社会教育本来の形を継続することにもつながるといことで、有意義な取り組みであったと考えています。ただ、コロナの影響は来年以降も続くと思われ、先程市長も言っていました外での遊びや部活動なども制

限が続き、一番心配なのは子どもたちの心、身体に影響がでてくるのが心配です。また、児童虐待とか不登校など様々な影響が心配されます。特別支援や何らかの困り感のある子どもたちが少しずつ増えてきている中で、児童生徒やその保護者に対する支援と同時に家庭力を高め自立した形で家庭生活における環境づくりが必要だと考えています。本日は家庭での支援も含めて、踏み込んだ形で意見交換できればと思っています。今後もより効果的な子育て教育環境づくりを進めていきたいと考えていますので、よろしく願いして、挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

亀淵教育部長

それでは、意見交換に入りますが、これからは北市長の進行で進めて参りますのでよろしくお願いいたします。

北市長

それでは、意見交換について進めさせていただきます。
はじめに「子育て支援・教育の包括的な支援体制について」を、事務局より説明をお願いします。

亀淵教育部長

資料1に基づいて、説明させていただきます。子育て支援・教育の包括的な支援体制についてご説明申し上げます。背景としまして、現在、子どもの出生数は増えていないものの、困り感のある子どもたちが増えている傾向となっています。平成26年度から令和2年度までの市内小中学校の児童生徒数の推移とその内の特別支援学級の推移ということで表になっています。児童生徒数につきましては、減少傾向ではありますが、特別支援の子どもたちは増加傾向で割合も高くなってきています。特別支援の困り感だけではなく、学校における生徒間、教職員間の中での人間関係等により不登校になる児童生徒もいます。また、家庭におきましては核家族化が進み、プライバシー意識が高まり等から地域とのつながりが希薄化しており、子どもとその保護者が孤立してしまう可能性が高くなっています。その中から、義務教育の間では、教育委員会が相談相手として対応できますが、高校になりますと、教育相談の関係ですが北海道教育委員会が所管となることから、なかなか保護者が相談できない状況です。本市におきましては、0歳から18歳までの子どもたちの発達段階や特性に応じた教育の充実を図るとともに、子どもの健やかな育ちや子どもを持つ家庭に対する支援体制を強化することを教育執行方針でも掲げています。また、先の市議会一般質問にもおきまして不登校児童生徒への支援の充実についての質問もあり、その中で包括的な支援体制について児童生徒、保護者等の各種相談ができる体制づくりを検討していくことで答弁しています。このような状況から、妊娠期から子育て期にわたって母子保健施策、子育て支援策を切れ目なく提供していくことにより、早期から幼児期からの療育を行うことによってその後の困り感の軽減や解消につながるものと考えています。さらに、不登校や虐待、高校生の家庭相談等をチームで対応できる体制づくりが必要と思っています。その体制の具体的なイメージですが、本年度からの第2期子ども子育て支援事業計画におきまして、基本方針1、2、3におきまして、安心して妊娠・出産できる環

境づくり、乳幼児期における健やかな育ちへの支援、自立や社会参加に向けた適切な支援の提供ということで、今後の検討課題として子育て世代包括支援センター・子ども家庭総合支援拠点の設置に向けた検討・体制の構築というものがあげられます。現在におきましても教育・保健・医療・福祉の連携をしていますが、さらに強化できる体制が必要と考えています。それをつなぐことができる、コーディネーターできる専門職の配置を考えていかなければなりません。子育て世代包括支援センターのイメージとしましては、図が載っておりますがコーディネーターを中心とし、保健医療課、こども未来課、福祉課、その他関係する子育て支援センター、子ども通園センター等が連携し、情報を共有することによってより強固な体制がつけられると考えています。また、民間におきましても困り感のある子どもたちを支援する動きもあることから、そのような組織とも連携することが必要と考えています。次に、切れ目のない子育て支援の体系図を示していますが、妊娠期から高校までのそれぞれのステージに応じた相談体制、ケアの体制が必要になると思っています。子どもだけではなく親につきましても家庭力の低下に伴い、そこを支えていく体制が必要です。行政だけではなく民間施設、民生委員等の協力も得ながら連携し、支援していくことによって子どもたちの自立をめざしていける体制をつくって行きたいと考えています。このスケジュールとしましては、令和4年度に新庁舎が完成し、その後令和5年度以降にこのような体制ができるように準備を進め、関係部署とも協議をしながら進めて行きます。

以上です。

北市長

子育て支援・教育の包括的な支援体制ということで、説明がありました。この件につきましてもご意見はありませんか。

宮本委員

亀淵部長から説明があったとおり、いろいろな環境変化によって個人とか世帯とかの取り巻く環境が変化し、生きづらさやリスクの対応とかの複雑化が背景にあると思いますが、今提案があったことは進めるべき重要なことだと思います。教育委員会が中心となりながら市長部局とも連携し共に進めていってほしいと思っています。視点は変わるかもしれませんが、切れ目のない子育て支援ということですが、支援する側と支援される側ということは重要だと思いますが、抽象的ですが人と人であるとか、人と地域とのつながりであるとか、社会のつながりであるとかの一人一人の生きがいや役割をもって助け合いながら暮らしていけるコミュニティづくりの原点に立ち返って考える必要があります。民間組織の連携とありますが、目立つところではふらの未来ラボの取り組みは、高齢者と子どもたちがお互い学びあってつながっていくコンセプトのもと活動が行われています。あかならであれば移住者を中心にしながら移住の相談にのりながら文化芸術を楽しむ潤いあるまちづくりをめざし、人と人がつながっていく取組を進めています。併せて提案された取り組みとこういった社会教育的な取り組みを重なり合わせて進めることが人と人とのつながりそのものがセイフティネットの基礎となりますので、進めていただきたいです。民間の力を使いながら潤いあるまちづくりを進めて

行ければという感想を持っています。

北市長

今のご意見に何かございますか。

渡邊委員

不登校の子の件に関しまして、不登校の生徒たちは学校に行けないことの後ろめたさであったり、負い目であったりして家に引きこもりがちになってしまう傾向があると思います。学校以外の学び場をボランティアであったり、サークルや部活などの学校以外の安心できる場所を提供できると良いと思っています。

北市長

原因を探すわけではなく説明のあった子どもの困り感というところは、ご指摘の不登校のこどもたちは学校に行けないことに負い目を感じていて子どもの心理状態に悪影響を与えており子どもが困っている状況です。実際にその影響を生み出すような、影響を与えるようなことは社会であったり家庭での親との関係であったりという部分があると思います。子ども側に全て原因を向けるのではなく、社会全体で子どもたちを育てていく環境をつくっていく中で人との信頼関係がうまれたり、人の信頼関係がうまれたことであまり好きな言葉ではないですが困り感のある子どもたちが減っていくことにつながっていく気はしています。行政の側としての役割を協力的に進めていきたいと思っています。

菅野委員

先日の教育委員会の定例会の中で、第2期子ども子育て支援事業計画の冊子をいただき見ましたが、細かく事業を進めていることはすごいことだと思いました。市長が言われたとおり、市民全体が認識して市民全体で支援する体制が大事だと思います。行政がやっていることだという感覚で市民が見ていると宙に浮いてしまうので、社会全体で支えていき、困り感のある子どもたちがこれだけいるということは同じぐらい親もいるので地域全体で支えて見守っていくことが必要だと思います。こういった取り組みには人材が必要で、人材の確保は専門的な知識を持ったコーディネーター中心に進めるということなどで大事だと思います。

北市長

それぞれ教育委員さんのご意見がでましたので、最後に教育長にまとめをお願いします。

近内教育長

地域全体で助け合う視点というのが必要となると思います。今までは、社会が発展する中で分業化が進んで、学校教育、社会教育、行政、民間に再分化されてきましたが、発展の中では良かったですが、これからは人口減少、少子高齢の中で考えるとみんながつながり合って支え合っていくことが視点として重要だと考えます。子どもたちだけでなく保護者同士がつながりながらお互い支え合うことも視野に創り上げていくことができれば、子どもたちにとっても大きな支えになると思います。子どもと親は一生向き合わなければならぬことですので、家庭力をつけていくことにシフトしていければより良くなると思います。渡邊委員から話のあった子どもたちも一緒にいるという考えもありますが、社会全体が統一的な

考え方を強制するようなことではなく、どの子どもも個性があり特性があり一人一人が自分に合った生活社会参加ができ認めていけるような社会づくりを市民全体で理解しながら進めていくことが重要だと感じたところです。

北市長

全体を通して何か意見はありませんか。

宮本委員

一点、象徴的な話になりますが、2015年に子育て評価全国連絡協議会というところがありまして、子育てに関する調査結果で包括支援センターに係る事業に訪れる72.1%が自分が育った市区町村以外の地域で子育てをしている。富良野市で見た時は、富良野市以外で富良野市に来た人たちの72.1%が包括支援センターでお世話になっているということです。近所で子どもを預かってもらえるところがあるか無いかということで、富良野市以外で富良野市に来た人は71.4%が子どもを預かってくれる人がいないと7割近く回答しています。富良野で育った人たちは、自分が育った市区町村で子育てをしている人たちは、近所で預かってくれる人がいないと30.6%と回答し、2倍以上の開きがあります。めざすべきは自分が育ったところでない富良野市で、近所で預かってくれるまちであることです。そのためには、抽象的ですが、人と人とのつながりだとか、人と地域のつながりをしていくことで家庭教育につながり、学校でももっと家庭教育に踏み込んで関わってほしいと思っています。

菅野委員

そういった意味では子ども会というものがあって、学校では勉強はそうでもなかったですが、子ども会では能力を発揮して、例えばキャンプで火をおこすのが得意な子がいたり、自分の良さを自分で発見できるとかそれを親が見て自信につながる子ども会とか少年団などを見直すことが大事になると思います。

北市長

先程教育長が言っていたとおり、子どもに違いがあつて当たり前で、違いはかならず何か意味を持って生まれてきたわけで、それを大切に子供たちの成長を見守ることが社会に認められることだと思います。併せて出生率について、富良野でも1.4くらいでこれから下がる傾向にあります。出生率の高い地域では宮本委員が言っていたとおり、地域で子育てに関われる体制が整っている地域では出生率が高いという傾向があります。ただ、その地域で仕事があることがその地域にとどまれることになるため高い傾向となっています。すべて合わせ技で子育てするなら富良野市でと創り上げて行きたいと思っています。よろしくをお願いします。

次に2点目の「令和3年度以降に向けた、教育委員会主な施策について」事務局より説明をお願いします

亀淵教育部長

資料2に基づいて説明いたします。令和3年度以降に向けた、教育委員会主な施策について大きく4点について説明します。まず1点目が学習環境整備について、1人1台の端末が富良野市の児童生徒に配備されようとしています。そのような中でICTを活用した児童生徒の個別最適化の教育に向けた取組を進めます。導入

した物をどう使っていくかが重要であり、現在教育委員会、各学校における ICT に詳しい先生方に集まっていただき、ICT 利活用検討委員会を設置し、その中でいろいろな取り組みを検討しています。ICT に詳しい先生方を中心に学校では、ICT のスキルを高めることが重要だと考え、取り組んでいます。また、児童生徒については、これから学校だけではなく自宅へ持ち帰ることを前提としています。予習・復習の在り方、端末を活用した中での自らの学びというものを進めて行きたいと考えています。不登校により学校に通えない児童生徒に対する学びの遅れを ICT を活用した学びの継続ということを進めています。本年度は臨時休業となり、これからどうなるか分かりませんが、学校が一斉に休業となることはないと思いますが、学年ごとなど部分的に休業が考えられます。そのような中で活用していきたいと考えております。その取り組みが進められることにより、教職員の働き方改革につながるような取り組みを進めます。そのため次年度以降に学習に使う学習支援ソフトの導入や端末に入れるため著作権の問題に対応した形で進めていきたいと考えています。また、教職員の働き方改革では、各種通信などのペーパーレス化を進めて行きたいです。

2 点目の学校他教育環境の整備についてですが、学校施設長寿命化計画に基づいた施設改修を進めています。最優先事項は、令和 4 年 4 月開校予定の樹海義務教育学校の増改築を進めているところです。併せて昨年来、富良野小学校におきましては、児童生徒の体力の低下、それを補うためコミュニティ・スクールから休みの日を利用した体力向上に向けた取り組みを進め、学校施設整備方針では学校が地域の生涯学習やまちづくりの核となる整備を進めることとされています。校庭を使用した中で各種運動ができるようにフェンスの設置を考えています。富良野小学校の改修に向けた検討も進めて行きたいと考えています。次に、市立学校適正規模・適正配置の指針に基づいた学校の再編については、本年度に山部中学校が富良野西中学校と統合しましたが、令和 4 年に樹海小学校、樹海中学校が義務教育学校として配置されます。それ以降は、現在令和 5 年度に布礼別小学校を閉校し、東小学校と統合に向けた検討も進めています。PTA では了承を得られ、地域との話し合いを進め、一定程度の方向性で決定される見込みとなっております。具体的な取り組みを進めています。図書館における学習機会の充実と生涯教育施設としての環境整備として、新庁舎完成後において図書館では、学校教育課とこども未来課が本庁舎に移転となります。移動した中で社会教育施設として機能強化を図ることが重要と考えています。文化会館が解体され公民館機能も含め機能強化と考えています。

次に 3 点目の子育て支援についてですが、先程の資料 1 でも触れましたが切れ目のない子育て支援ということを説明させていただきました。今、保育所におきまして令和 3 年度の入所募集を行っています。今年におきましては、コロナ禍の影響、女性の社会進出などを背景に、例年であれば 2～3 名の待機児童数でしたが、今年は多くなっている状況です。さらに幼稚園における困り感のある園児の受入れが難しくなっています。公立保育所としての受入れ体制を強化する必要があります。不安感のある児童生徒・保護者への相談支援体制への構築が必要です。具体

的な取り組みとしましては、包括的な支援体制の検討を進め、待機児童が増えている部分で公立保育所の0～2歳の子どもたち、困り感のある子どもたちの受入れ環境の増強を検討しています。場合により公立保育所と私立幼稚園の住み分けというものを検討しなければならないと考えています。さらに、6月の総合教育会議の中でも話題のへき地保育所の在り方の指針を作成しましたので、それに基づいてへき地保育所との協議を進めて行きます。

最後4点目の富良野市内高校の魅力づくりについてですが、富良野市に2つの高校がありますが、生徒数が減少しています。より魅力ある高校づくりのために沿線町村のご理解もいただきながら、本年11月に市内2校の高校の再編について北海道・北海道教育委員会へ要望書を提出しました。地域の子どもたちが富良野の高校に通って夢を叶えられる高校の魅力づくりの支援が必要だと考えています。資料の表では、令和2年度及び令和3年度の各市内の高校への進学希望です。昨年度におきましては、富良野高校、緑峰高校への進学希望が69.4%でしたが、今年度は61.5%で約8ポイント程度減少しています。それ以外で旭川またはその他エリアへの進学希望が増えています。本年4月より富良野市高等学校教育振興会が設置され、その目的として市内の2校の高校に通う生徒への物品やサービスなどを支援することで両校の教育活動の推進及び発展を図り教育振興を行うことを目的に設立されました。その会員につきましては、両校の同窓会会員及び組織の趣旨に賛同する個人または団体をもってするとされています。本市としても振興会への支援を考えて行きたいと思っています。

以上です。

北市長

教育委員会の主な施策ということで、4点に分かれておりますが、1点目の学習環境整備について、ご意見を伺いたいと思います。

宮本委員

教育長の挨拶にもありましたが、北市長が推進しているICT化が進んでいるおかげでいろいろな夢や希望が広がっています。ICTが導く教育の個別最適化を考えると、説明があったとおり不登校の児童生徒に対して対応が可能となります。文部科学省の通知でも不登校の対応は、学校に登校するという結果のみをめざすのではなくて、自らの進路を主体的に捉えて社会的に自立することをめざす必要があると通知がありました。そういった観点から発想の転換をして考え、ICT化によって児童生徒がタブレットをもって、タブレットは文房具と一緒に扱いとなり、文房具が学校に通わないけれど個別最適化が進められ大きく前進するものと思います。教員数が少ない小規模校に対しての対応も可能となります。病気療養中の児童生徒にも、遠隔授業する時には一方に教師がいて、受け取る方にも教師がいなくていいなかったが、送る方に教師がいて、受け取る方には教師がいなくても良いとなったので、かなり前進しています。病気療養中の児童生徒は少ないかもしれませんが、効果的に進めることができます。現時点でのICT化が導く個別最適化だと思います。個別最適化の前には文言として誰一人として取り残さない公正に個別最適化されたとなっていますので、進めてほしいと思います。

北市長

他にご意見ございますか。

菅野委員

これからの教育では必要であると思いますので、市としても素早く対応していただきありがたいです。教育とはすぐに効果が出るわけではなく、数年かけて使う方にもよりメリットが良い方向に進み、使っているうちにデメリットが浮き彫りになってくると思うので、例えば機械の故障などいろいろな問題が出てきて、1つ1つ解決していけば良いかなと思っています。使うことが目的になってしまうと本末転倒で、先生が一方的に行う授業から変わっていくと思うので、視覚や聴覚によって受ける授業の幅が広がり、1つのツールとして使うことが大事だと思います。使うことが目的となると目的と違うため、気を付けていただければと思います。デジタル教科書の話もありますので、それに対応したことも大切だと思います。子どもたち1人1人に入ってくる情報の幅が広がりますので、子どもたちの読解力がますます重要になってくると思います。幅や視野が広がると高校の進学にもつながり、偏差値の高い高校だけが目標ではなく、違う文化や芸術などで自分の目標を叶える1つのモデルとなることをICT化によって活かしていただきたいです。

北市長

いろいろな取り組みが可能となってくると思います。他にご意見ありませんか。

渡邊委員

コロナの状況で風症状がある場合は、学校を休むこととなっていて、子どもたちは授業を受けたいけど、休まざるおえない状況で通常の授業もライブ中継で見れるようになれば、授業の遅れを心配しなくてもよく安心感につながると思います。ご紹介ですが、本日富良野東中学校の2年生がライブ中継で職業調べ学習発表会を行っていて、現場の先生方はいろいろな方法で頑張っていますので、ご紹介です。

北市長

先生方が調べたものを行っているのですか。

渡邊委員

子供たちが調べたものを紹介し、参観日などを行っていないので保護者の方に見せるということでYouTubeで見せています。現在行っています。

北市長

子どもたちが活用するようになったのですね。富良野市の教育委員会としての取り組みとは違いますが、関係人口をつくるということで、ワーケーションの取り組みも行政として進めていて、その中で家族で富良野に来たなかで子どもさんがいて、富良野にどれくらい滞在すかもありますが、1～2月の期間では子どもの教育を考えることが課題となっています。その中でタブレットを利用して距離感のない教育を受けられるのは、1つの魅力にもなると思います。今後の取り組みの中身にもなりますが、考えて行きたいと思っています。

近内教育長	私も同じようなことを考えていまして、本州の東京に通っている子どもがいて、1ヶ月間富良野に来たとして、遠隔教育を使うのであれば学校に学籍を置いたまま富良野で遠隔で授業ができるようなことが可能となります。もう1つは、東京の学校と富良野市教育委員会が事前に協定を結んで、富良野の学校に通っても出席を認めるということになれば可能だと考えられます。今後の検討課題です。ワークショップを定着させる考え方だと思います。
北市長	この部分については可能性ということで工夫次第で活用の幅が広がるということです。次に2点目の学校他教育環境の整備についてご意見を頂きたいと思います。
宮本委員	この提案どおり進めていただきたいです。可能であれば施設の改修に関わることで、LGBTの観点から学校は避難所になるので、現行の学校では男子トイレの面積と女子トイレの面積が同じで、女子の便器の数が男子より少なくなります。施設改修に余力があれば、女子のトイレの面積を増やし男子と女子のトイレの個数を同じにすると、児童生徒にとっても良いと思います。避難所になった場合でも対応が可能となります。
北市長	ご意見として伺います。他に意見ありますか。
菅野委員	図書館ですが、新庁舎完成後社会教育施設ということで、高齢な方も知識や技術を持った方もいますので、集まって新しい富良野の取り組みを行ってもらえるような、そういった方々の力を活かしていただく施設になれば良いと思います。
北市長	図書館のご意見がありました。教育長どうですか。
近内教育長	図書館はかつては本を貸す場所ではなかったですが、現状の利用を考えますと午前中は高齢者の方が新聞、雑誌を読みに来連の方が来ています。午後からは、中学生、高校生が2階に勉強する場所としてほぼ毎日複数の方が来ています。状況によっては、社会人の方も仕事の関係で使っています。幅広く使っていただきながら、色々な活動に結び付けて行けるような施設になれば良いと考えています。
北市長	2点目の関係はよろしいですか。次に3点目の子育て支援について、ご意見ございますか。切れ目のない子育て支援についてです。前段の中でもご意見伺ったのでよろしいですか。最後4点目の富良野市内の高校の魅力づくりについて、ご意見いただきたいと思います。
宮本委員	魅力づくりについてという標題があるとおり、選ばれる高校づくりということ市内2校が行っていかねばならないと思います。そのためには、富良野高校では単位制を行っていますが、緑峰高校も単位制を取り入れ中学生にアピールす

るような教育課程づくりを行うことが重要だと思います。演劇手法を取り入れた教育であるとか、いろいろな魅力があるのでしっかり取り入れ、中学生に選ばれる高校づくりを進めて行くべきだと思います。感想です。地域あげて支援していただければと思います。

菅野委員

宮本委員が言われたとおり、魅力ある取り組みをしてもらいたいです。高校があるとないとは全然違いますので、市民上げて応援していただければありがたいです。

渡邊委員

魅力ある高校なので、もっと市長がPRしていただきたいです。先日、マルシェ2に行きまして、大型ビジョンで高校生の演劇とか少林寺の演武だとかのVTRを流すと、中学生や他から来た人たちが見る機会があるので、プライバシーに配慮した形で考えられるのではないかと思います。

北市長

ご指摘あったように情報を出していく、アピールしていくことは割に奥ゆかしいまちで静かになっていると思います。高校の関係についても富良野では工業高校がないと思っている方がいます。デジタルの社会をどうするのかということで、社会では技術系の人材育成が求められていて、その中から富良野では工業高校がないと思っている方がいます。魅力づくりだけではなく、魅力を出していくといったアピールも必要と思います。教育長が関わっていますのでいかがですか。

近内教育長

高校がどれだけ魅力あるのかということを地域挙げてアピールすることによって、子どもたちが夢をもって地元の高校に通うことになると思っていますし、そのためには具体的な取り組みを外にだしていくことが重要です。それぞれの校長先生と話していますが、地域と連携した取り組みを進めることと、現時点では教育委員会は義務教育が中心ですが、小・中・高連携した取り組みを進めようとしています。具体的には、英語教育について、今年から北海道教育委員会のモデル事業として、小・中・高連携した一貫したカリキュラムを作り、高校卒業の時点で一定の英語が使えるようにすることです。英語だけに限らずキャリア教育とかいろいろなものと連携を図りながら進めて行きたいと思っています。

北市長

高校の魅力づくりについては、よろしいですか。それぞれの項目に注目しながら進めていただければと思います。次にその他とありますが、事務局では何かありますか。

亀淵教育部長

特にありません。

北市長

以上で会議を修了したいと思います。貴重なご意見をいただきながら、会議を進めることができました。ありがとうございます。今日出された意見等がこれからの富良野市の教育、子どもたちの教育のために活かされるように、行政と力を合わせ

て進めて行きたいと思います。また、みなさんのご協力もお願いします。本日はありがとうございました。

亀淵教育部長

以上を持ちまして、第2回富良野市総合教育会議を終了いたします。

閉会 午前 11 時 33 分